

ES の取り組み

【実施概要】	日時	通年，週 1 時間
	対象生徒	中学 1 年 全クラス 192 名

教科書 NEW HORIZON1 をベースにしたオリジナルプリントを外国人教師が作成し、週 5 時間ある日本人教師が行う教科書を用いての授業や文法の授業で学習したことを使って英語で自己表現をすることができる力や英語で発表することに対する前向きな姿勢の育成を目指した授業を行っている。基礎基本を大切にしながら、英語は言葉であるということ意識させ、学習した内容を使って自分のことを表現したりする機会を作った。身近なトピックや生徒が興味を持っていることなどを内容に取り入れたり、ペアワークやグループワークを取り入れたりしながら、生徒が英語を使う楽しさと大切さを理解できるようにした。また、文化的なことにも触れ、生徒が外国の文化を理解し、興味関心を持てるようにしている。

【仮説】

- ・ 予習より復習を重視する。外国人教師が英語で説明や指示をすることでリスニング力がつく。
- ・ 学期に 1 回は全員発表をする時間を設け、英語での発表に対する前向きな態度を育成することができる。
- ・ 文化的な違いや外国のことをトピックに入れ、生徒が他の国や異文化を理解しようとする態度を養うことができる。

【授業実践例】

- ① 「自己紹介」、「観光地の紹介」、「有名人の紹介」など、自分自身のことについてや身の周りのこと、興味を持っていることなどを表現して発表する機会を持った。英語で身近なことを表現する楽しさを実感した。
- ② 日本人教師が行う教科書を使っての授業や文法の授業と進度を合わせながら、学習した文法事項を使って英語を書いたり、話したりすることで文法事項や新たな表現の定着を図った。
- ③ ペアワークやグループワークで相手の好きなものを聞いたり、誕生日を聞いたりすることでコミュニケーションに必要なツールとして使っていく、「英語が使えた」「英語を使えることは大切だ」という感覚を持たせるように工夫した。
- ④ 全員に英語での発表の機会を与え、人の前に出て発表する態度を指導し、プレゼンテーションやポスターの発表にもつながるよう、英語で発信することに対する前向きな姿勢を育成するよう努めた。

【授業者の評価】

日本語教師による教科書を用いての授業や文法の授業を基にして、そこでのインプット、インテイクした文法事項や表現をつかってアウトプットする機会を与えることができた。説明や指示に多くの時間を取らないように心がけ、少しでも生徒が自ら考えて、英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする姿勢を育成することができた。また、自分たちの身近に起こっていることや、日本のこと、海外との違いなどにも改めて目を向けるようなテーマで、自分自身に関わることを英語にすることができ、英語を使うということがより身近に感じるようになったように思う。

英語によるプレゼンテーションやポスター発表に向けて、聴衆を意識して発表ができるようになるのが今後の課題であるように感じている。

